

## トラブルシューティング（V 4. 2 及び V 4. 3）

1. オペレーターIDを入力すると以下のメッセージが表示され、ログインできなくなりました。  
最大数のオペレーターがログインしています 又は  
オペレーターは既にログイン中です  
(Maximum No. of Operators Already Logged in) or  
(Operator already logged in) .....Page 2
2. オペレーターIDを入力しパスワードを3回間違え、以下のメッセージが表示され、ログイン出来なくなりました。  
V4.2の場合  
パスワード侵害 - システム管理者に連絡してください。  
(Password violation - Contact your Systems Administrator)  
V4.3の場合  
アカウントはロックされています。システム管理者に詳細を問い合わせして下さい。 .....Page 3
3. Query&Analysis (Vision) を使用しようとしたら、以下のメッセージが表示されログイン出来ない。  
※実際に使用しているユーザー数は最大数に達していない。  
最大数のオペレーターがログインしています  
(Maximum No. of Operators Already Logged in) .....Page 4
4. A A = 個別消込み (Account Allocation) で勘定科目を選択すると以下のメッセージが表示され消込みできなくなりました。  
この勘定科目は消込処理中 - 再試行しますか (Y/N)?  
(Allocation in progress on this account - Retry (Y/N)? ) .....Page 5
5. J E = 仕訳入力 (Journal Entry) で、V = 保存仕訳一覧 (View Held Journals) を選択、又は、R = 仮帳簿仕訳 (Recall Journal) で仕訳を呼び出そうとすると次のメッセージが表示され仕訳が呼び出せない。  
仕訳帳使用中、又は 仕訳が使用されています  
(Journal in use) .....Page 5
6. J E = 仕訳入力 (Journal Entry) 中にコンピュータが強制終了してしまいコンピュータを再起動した。再度 J E = 仕訳入力 (Journal Entry) を開くとメニュー画面に戻ってしまい画面左下に次のメッセージが表示される。  
\_WORK¥SAJE-xxx.DAT 失敗 ファイル状況 9-041  
((\_WORK¥SAJE-xxx.DAT) Failure File Status 9-041) .....Page 6
7. 仕訳入力で、元帳へ転記前、または仮帳簿 (Rough Book) に転記した後に  
入力間違いを発見した。 .....Page 6
8. 期末処理の方法について。 .....Page 7
9. 勘定科目を増やしたが、帳票に反映されない。 .....Page 7

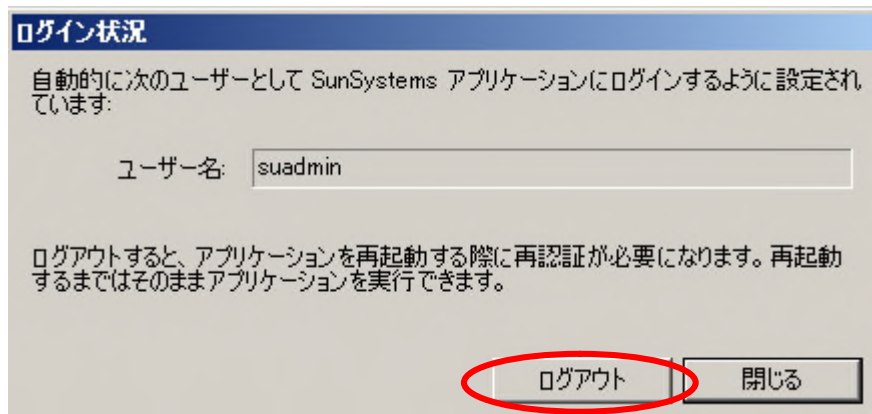
## 1. オペレーター IDを入力すると以下のメッセージが表示されログインできなくなりました

最大数のオペレーターがログインしています 又は オペレーターは既にログイン中です  
(Maximum No. of Operators Already Logged in) or (Operator already logged in)

途中で電源を切ってしまったり、強制終了したりした際にこのエラーメッセージが出力されます。  
これは、システムで使用できるオペレーターの数が決まっていることと、ログイン中に電源が切れると  
ログインしていたユーザーの情報が消えないことによって発生します。  
この場合、本人以外のオペレーターIDでログインし、「ログイン中になったままのオペレーター」をクリアし  
ます。

### 解除方法

- 1) V4.3 (V4.2の場合は2) へ移って下さい) から右下のタスクトレイに「ログイン状況」アイコン  または  が追加されています。アイコンをダブルクリックすると、下記のように、ユーザー名にログイン中にな  
ったままのオペレーターが表示されますので、「ログアウト」ボタンを押し、ログイン情報を一旦クリアし  
ます。



- 2) SunSystemsを起動
- 3) オペレーターID (ユーザー名) (本人以外のオペレーターID (ユーザー名)) →パスワードの入力→日付  
→エンターでログイン  
※ 本人以外のオペレーターがいない場合には、オペレーターID(ユーザー名)は'SUN'にして下さい。'SUN'  
のパスワードは初期設定の場合'SUNSYS'と設定されていますが、その後御社で設定を修正した場合には  
そのパスワードを入力して下さい。
- 4) ログイン後の画面から→選択 (Action) で「**ZC**」と入力
- 5) ログイン中になったままのオペレーターIDを入力。

画面下に以下のメッセージが表示されます  
オペレーターのログインはクリアされました (Operator log-in cleared)

- 6) 終了 (Exit) 〈X〉
- 7) V4.3の場合は1)と同様の手順でログイン情報をクリアします。
- 8) SunSystemsを再起動し、通常のオペレーターIDでログインできるようになります。

## 2. オペレーターIDを入力しパスワードを3回間違え、以下のメッセージが表示され、ログインできなくなりました

### V4.2の場合

パスワード侵害 - システム管理者に連絡してください。

(Password violation - Contact your Systems Administrator)

### V4.3の場合

アカウントはロックされています。システム管理者に詳細を問い合わせして下さい。

これは、ログイン時にパスワードを3回間違えたため、オペレーターIDがロックしてしまったことにより表示されます。この場合、管理者用IDでログイン「ロックしてしまったオペレーター」をクリアします。

### 解除方法（V4.2の場合）

- 1) デスクトップにあるショートカットアイコンからSunSystemsを起動します。
- 2) ログインするユーザー名は「SUN」です。  
パスワードは初期設定の場合「SUNSYS」に設定されていますが、その後設定を変更している場合は、そのパスワードを入力します。
- 3) SunSystemsの画面が開いたら、選択（Action）欄に、「**ZC**」と入力します。
- 4) オペレーターIDクリア（Clear Operator ID）の画面が開いたら、パスワードを3回間違えた方のオペレーターIDを入力し、「OK」ボタンを押します。

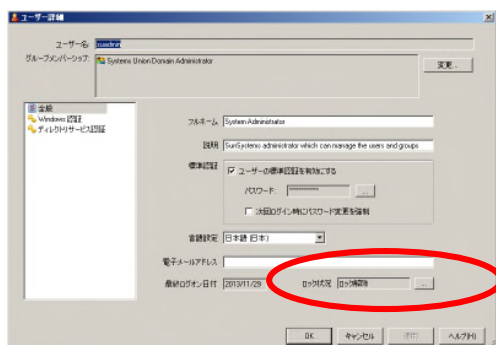
※画面下に以下のメッセージが表示されます

オペレーターのログインはクリアされました (Operator log-in cleared)

- 5) SunSystemsを（Exit）〈X〉で終了します。
- 6) SunSystemsを再起動すると、通常のオペレーターIDでログインできます。

### 解除方法（V4.3の場合）

- 1) デスクトップにあるショートカットアイコンからユーザーマネージャを起動します。
- 2) ログインするユーザー名は「suadmin」です。  
パスワードは、初期設定の場合「空白」に設定されていますが、その後設定を変更している場合は、そのパスワードを入力します。
- 3) ユーザーマネージャの画面が開いたら、パスワードを3回間違えた方のオペレーターIDをダブルクリックします。
- 4) 次の画面が表示されますので、「ロック状況」を「ロック解除」に変更します。



- 5) 画面右下の「適用」ボタンを押し、「OK」ボタンを押します。SunSystemsユーザーマネージャの画面に戻ったら画面を右上の[×]ボタンで閉じます。
- 6) 右下のタスクトレイの「ログイン状況」アイコン  または  をダブルクリックし、「ログアウト」ボタンを押し、ログイン情報をクリアします。
- 7) SunSystemsを再起動すると、通常のオペレーターIDでログインできます。

### 3. Query&Analysis (Vision) を使用しようとしたら、以下のメッセージが表示されログインできない。

最大数のオペレーターがログインしています (Maximum No. of Operators Already Logged in) とメッセージが表示されログイン出来ない。

※実際に使用しているユーザー数は最大数には達していない。

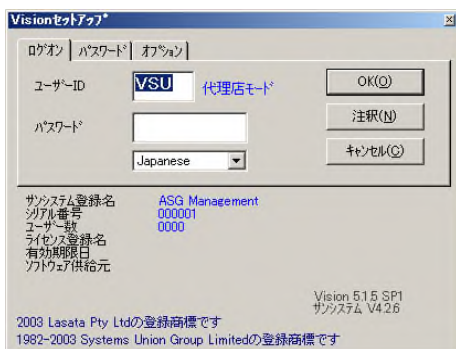
これは、Query&Analysis (Vision) を使用中に、何らかの原因で強制終了してしまった、又は、Query&Analysis (Vision) 使用後にそのままExcelを終了した場合に、「ユーザー情報」がExcel上に残ってしまうことがあるために発生します。

この場合、Query&Analysis (Vision) の「セットアップ」画面を開いて、ユーザー情報をクリアします。「セットアップ」画面の開き方は以下のとおりです。

ウィンドウズのスタートボタンから→プログラム (全てのプログラム) をクリック

- ① Vision5の場合 「Vision for SunSystems」→「Utilities セットアップ」
- ② Vision6の場合 「Vision」→「セットアップ」
- ③ Query&Analysisの場合 「Infor Performance Management」→「Query & Analysis」→「セットアップ」

ログイン画面



[Vision5]



[Vision6]  
[Query&Analysis]

ログイン画面が表示されたら、ユーザーIDはそのままにし、パスワードを入力してOKします。

(初期状態ではパスワードは空白です)

次に、「セットアップ」画面が開いたら、「ユーザーアクセス権」のタブを表示させます。

Vision5の場合、ここで、「Yes」と入っているユーザーはログインしている、ということになります。

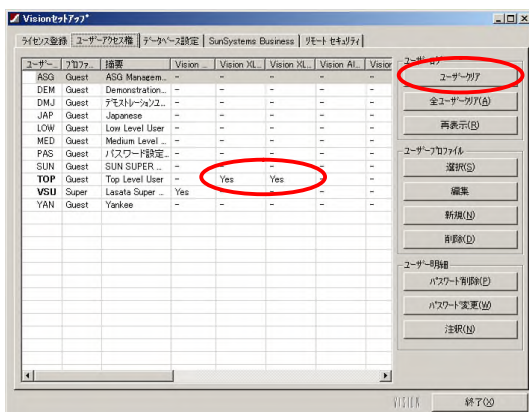
Query&Analysis (Vision6) の場合は、ログイン回数と日付が表示されているユーザーはログインしている、ということになります。

Vision5の場合は、使用していないユーザーを確認し、該当ユーザーをハイライトさせ、「ユーザークリア」ボタンを押します。

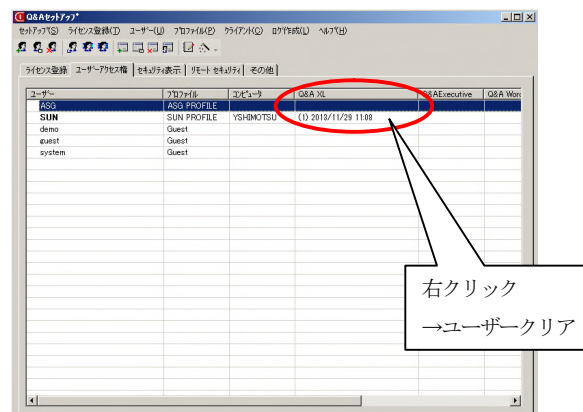
Query&Analysis (Vision6) の場合は、使用していないユーザーを確認し、該当ユーザーを右クリックし、ユーザークリアを選択します。

その後、再度、Excelを立ちあげて、Vision (Query&Analysis) にログインしてください。

[Vision5 の画面]



[Query&Analysis (Vision6) の画面]



**4. AA=個別消込み(Account Allocation)である科目を選択すると以下のメッセージが表示され消込みできなくなりました。**

この勘定科目は消込処理中 - 再試行しますか (Y/N)?

(Allocation in progress on this account - Retry (Y/N)?)

このメッセージが表示される原因には次の3つが考えられます。

- 1) 他のオペレーターが、その科目を消込または修正作業を行い、P=転記(POST)せずに保存している(P=転記(POST)せずにAA=個別消込み(Account Allocation)を終了している)場合に表示されます。
- 2) ネットワークを御利用のお客様は、他の人がその科目を使用中の場合に表示されます。
- 3) 以前、選択した勘定科目コードを使用中に、何らかの原因で強制終了してしまった。

**対処方法**

上記原因の3)の場合を除いてこのメッセージは正常な警告を表しています。そこで、このメッセージの原因が3)か、それ以外なのかを調査する必要があります。

**1)の場合かどうかの調査**

他のオペレーターにこの勘定科目コードを使用していないか聞く。または、それぞれのオペレーターにログインしてもらい、AA=個別消込み(Account Allocation)で選択した際、勘定科目コードを選択する画面ではなく、その勘定科目コードの明細が表示される人がいるか調査します。もし、作業中のオペレーターがいた場合は、作業内容をP=転記(POST)してもらうか、作業内容を破棄してAA=個別消込み(Account Allocation)から抜けてもらいます。

**2)の場合かどうかの調査**

他のオペレーターにこの勘定科目コードを作業していないか聞くことにより調査できます。作業中のオペレーターがいた場合は、②と同様に作業内容をP=転記(POST)してもらうか、作業内容を破棄してAA=個別消込み(Account Allocation)から抜けてもらいます。

前述の調査で、原因が3)にあることが判明した場合、表題のメッセージに対し

「はい(Yes)」/「いいえ(No)」ボタンを押すのではなく、「Z」(ゼット)キーを押します。

すると次のメッセージが表示されます。

消込コントロールは上書きされます。よろしいですか(Y/N)?

(Allocation control will be overridden OK (Y/N)?)

このメッセージに対して「はい(Yes)」を選択すると作業可能となります。

**5. JE=仕訳入力(Journal Entry)で、V=保存仕訳一覧(View Held Journals)を選択、又はR=仮帳簿呼び出し(Recall Journal)すると次のメッセージが表示され仕訳が呼び出せない。**

仕訳帳使用中 又は 仕訳が使用されています

(Journal in use)

このメッセージが表示される原因には次の2つが考えられます。

- 1) ネットワークを御利用のお客様は、他の人が仕訳を呼び出している場合に表示されます。他のオペレーターに使用中かどうか聞くことにより調査できます。使用中のオペレーターが存在した場合は、作業が終了するまで同一仕訳は選択できません。
- 2) 以前、選択した仕訳を呼び出した際に、何らかの原因で強制終了してしまった場合に表示されます。

(ア) 保存仕訳の場合

エラーメッセージの出た画面で、「ESC」キーを押し、カーソルを選択 (Action) に戻したら、「ZR」と入力しエンターキーを押します。カーソルが仕訳参照番号選択欄 (Select Journal Reference) に移動するので、エラーになったときの保存仕訳の番号を選択します。以下のメッセージが出力されます。

仕訳 "使用中" が解除されました (Journal "In use" Flag Successfully unset)  
以上で解除されます。

(イ) 仮帳簿仕訳の場合

エラーメッセージが出た画面で、表示されているボタンを押さずに「Z」キーを押します。すると次のメッセージが表示されます。

仕訳帳使用中一制御は上書きされます Y/N (Override Journal in Use Control? Y/N )  
「Y」と入力します。以上で解除されます。

**6. JE=仕訳入力 (Journal Entry)中にコンピュータが強制終了してしまいコンピュータを再起動した。再度JE=仕訳入力 (Journal Entry)を開くとメニュー画面に戻ってしまい画面左下に次のメッセージが表示される。**

(\_WORK¥SAJE-xxx.DAT) 失敗 ファイル状況9-041  
( (\_WORK¥SAJE-xxx.DAT) Failure file status 9-041)

このメッセージは、入力中に強制終了となった為、システムが一時的に仕訳の作業ファイルとして作成したSAJE-xxx.DAT が壊れてしまった事を表しています。

また、SAJE-xxx.DAT のxxx は、強制終了時にSunSystemsへログインしていたオペレーターIDです。

対処方法は、上記ファイルおよび同一ファイル名で拡張子が「IDX」のファイルを削除します。

削除しなければならないファイルの保存フォルダはSunSystemsがD:¥SUN433にインストールされている場合は通常、 D:¥SUN433¥\_WORKで、ファイル名は「SAJE-XXX.DAT」と「SAJE-XXX.IDX」(XXXはオペレーターID) です。

※マイコンピュータやエクスプローラ等の「ツール」「フォルダオプション」「表示」の設定で「登録されている拡張子は表示しない」設定となっていた場合、「DAT」「IDX」といった拡張子が表示されないことがあります。が、「表示」「詳細」を選択し、「ファイルの種類」で確認することができます。

また、他のファイルを削除しないよう十分注意して行ってください。

**7. 仕訳入力で、元帳へ転記する前または仮帳簿 (Rough Book)に転記した後に入力間違いを発見**

仕訳入力中に修正する場合：

入力画面の選択 (Action) で、A=修正 (Amend)、取引参照番号 (Transaction Reference) を指定、行番号 (Line No.) 指定し、修正します。

保存 (Hold) したものを呼び出して修正する場合：

JE=仕訳入力 (Journal Entry) 選択後、選択 (Action) で、V=保存仕訳一覧 (View Held Journals) → 修正したい仕訳参照番号 (Journal Reference No.) → A=修正 (Amend)、取引参照番号 (Transaction Reference)、行番号 (Line No.) を指定し、修正します。

仮帳簿処理 (Rough Book Posting) した仕訳の場合：

JE=仕訳入力 (Journal Entry) 選択後、選択 (Action) で、R=仮帳簿仕訳 (Recall Journal) を選択し、仮帳簿へ

転記した際の仕訳転記番号(Journal Number)を指定→A=修正(Amend)、取引参照番号(Transaction Reference)指定、行番号(Line No.)を指定し、修正します。

行削除する場合：

上記各操作で、入力画面に仕訳を呼び出した後、D=削除(Delete)を選択。削除したい取引参照番号(Transact ion Reference)を指定し、削除したい行番号(Line No.)を指定します。

「削除してもいいですか？ (Delete OK ?)」のメッセージに対して「OK」ボタンを押します。

保存(Hold)した仕訳をすべて消去する場合：

JE=仕訳入力(Journal Entry)選択後、選択(Action)で、V=保存仕訳一覧(View Held Journals)→「ESC」キーを押すとカーソルが選択(Action)に戻る→C=仕訳削除(Clear Journal)→消去したい仕訳参照番号(Journal Reference No.)を選択→「仕訳が削除されます。よろしいですか(Y/N)? (Journal will be cleared ?)」のメッセージに対して「はい(Y)」を選択。

※仮帳簿に転記した仕訳をすべて消すことはできません。（転記番号を削除することは出来ません）

但し、どうしても仕訳をクリアにしたい場合には、呼び出した後一行を残して残り全ての行を削除します。その後、ダミーの行を一行仕訳入力します。（金額は¥0、勘定科目は任意）そして、再度仮転記をします。

## 8. 期末処理はどうすればいいのか

SunSystemsには基本的に「締め処理」という考え方ありません。そのため、期末の利益振替処理は仕訳を1つ入力する必要があります。処理はJE=仕訳入力(Journal Entry)にて入力します。

- 1) 決算修正の仕訳を会計期 1 2 ヶ月目 (Period :12/YYYY) で入力する。
- 2) 決算確定後、会計期 1 2 ヶ月目にて損益計算書を出力する。
- 3) 損益計算書の当期利益の金額をJE=仕訳入力(Journal Entry)、会計期 1 3 ヶ月目 (Period :13/YYYY) にて、貸借対照表勘定の前期未処分利益科目 (Retained Earnings Prior) へ振替える仕訳を入力する。この時相手勘定科目として、当期利益 (Net Income) という科目を使用しますが、これは、勘定科目コード 999 や、ZZ ZZ 等の期末のみ使用する科目として CA=勘定科目表 (Chart of Account) に設定しておきます。

仕訳：①利益の場合：当期利益 ￥ 999,999- / 前期未処分利益 ￥ 999,999-

②損失の場合：前期未処分利益 ￥999,999- / 当期利益 ￥999,999-

※ 決算整理及び決算修正やこの利益振替処理を行う前でも、期首の仕訳をNP=新会計期(New Period)、又はLD=元帳基本条件(Ledger Definition)にて 01/YYYY に変更する事により仕訳入力することができます。但し、転記会計期の間違えには十分注意してください。

9. 勘定科目を増やしたが、帳票に反映されない。

### 1) Query&Analysis (Vision) で作成した帳票に、追加した科目が反映されない場合

これは、科目範囲を参照させているセルの設定が違うか、設定ファイルの範囲指定が違う事が考えられます。

- ① 参照しているセルの科目範囲が違う場合

Excelを開いて、参照させているセルの勘定科目の範囲始めと終りが正しいかどうか確認します。違っていた場合には、セルを修正して、再計算をかけます。もし、参照させているセルが分からない場合には、Excelを開いて、正しい金額が表示されないセルをダブルクリックし、勘定科目のフィルタ範囲を確認します。（サンプルではA 8に勘定科目の設定がされています）

フィルタ

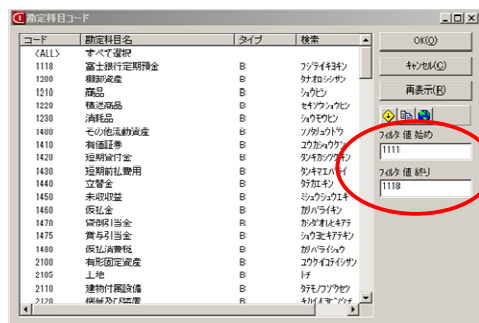
フィルタ 始め \$A8 ... 401 ロック   ...

フィルタ 終り \$A8 401

|         | フィルタ 始め        | フィルタ 終り | フィルタ 値 始め      | フィルタ 値 終り |
|---------|----------------|---------|----------------|-----------|
| 製品      | SunSystems 426 |         | SunSystems 426 |           |
| データベース  | \$A\$2         |         | ASG            |           |
| テーブル    | LA             |         | 元帳             |           |
| 元帳      | A              |         | A              |           |
| 勘定科目コード | \$A8           | \$A8    | 401            | 401       |

## ② 設定画面で科目範囲を指定している場合

Excelを開いて、正しい金額が表示されないセルをダブルクリックします。  
すると、設定画面が表示されますので勘定科目のフィルタ範囲を確認して、間違っていれば修正し、再計算をかけます。



SunSystemsから出力する帳票については、どの画面から印刷したかにより、調査する方法（画面）が異なります。

## 2) FS=財務報告書(Financial Statements)にて印刷した帳票(BS,PL等)に、追加した科目が反映されない場合

- ① SL=財務報告書設計(Statement Layouts)を開け、選択(Action)で、E=調査(Examine)を選択し、科目が反映されなかった帳票の設計コード(Layout Code)を指定します。（設計コード(Layout Code)は、FSで印刷するときのコードです）
- ② 右上に表示されている「行内容コード(Line Content Code)」をメモします。（これが行を設定しているグループのコードです）
- ③ LC=行内内容設定(Line Contents)を開け、選択より帳票出力(R)を選びます。画面が変わったら、行内容コードに先程メモしたコードを始めに入力（終りは空白）し、他はエンターキーで最後までとばします。カーソルが左上の選択に戻ったら印刷指示をかけます。
- ④ 印刷したものが設定内容の一覧表になります。一番左にあるコードの次の番号が、行を印刷する順番、次が行の種類、次が名前、次が勘定科目の範囲となります。（行名がーの場合は勘定科目の名前がそのまま表示されます）
- ⑤ 例えば、行内容コード（Line Contents）が'BS'で「売掛金」の行（行番号113の場合）に、勘定科目コード 074 を追加したい場合の設定は以下の通りです。
- ⑥ 修正する行が判明したら再度LC=行内内容設定(Line Contents)を開け、選択から修正(Amend)を選択します。行内容コード(Line Content Code)=BS, 行番号(Statement Line No.)=113, と入力すると現在の設定が表示されますので、勘定科目コード 終り(Account Code To) を074 に変更して、後はすべてエンターで送ります。
- ⑦ 以上で作業は終了です、再度 FS=財務報告書(Financial Statements)にて印刷指示を実行します。

## 3) FA=財務分析表(Financial Analysis)を印刷した帳票に、追加した科目が反映されない場合

- ① NL=財務分析表(Analysis Layouts)を開け、選択(Action)で、E=調査(Examine)を選択し、科目が反映されなかった帳票の設計コード(Layout Code)を指定します。（設計コード(Layout Code)は、FAで印刷するときのコードです）

- ② 画面右上に表示される「勘定科目コード 始め、終り(Account code From To)」が正しいかどうか確認します。誤っていた場合には、選択(Action)で、A=修正(Amend)を選択し、修正します。
- ③ 以上で作業は終了です、再度印刷指示を実行します。

#### 4) FT=財務テーブル(Financial Tables)を印刷した帳票に、追加した科目が反映されない場合

##### ★行の設定に勘定科目コードが設定されている場合

- ① TF=テーブル書式设计(Table Formats)を開け、選択(Action)で、E=調査(Examine)を選択し、科目が反映されなかった帳票のテーブルコード(Table Code)を指定します。(テーブルコード(Table Code)は、FTで印刷するときのコードです)
- ② 表示されている「行内容コード(Row Content Code)」をメモします。(これが行を設定しているグループのコードです)
- ③ TR=テーブル行設計(Table Rows)を開け、選択より帳票出力(R)を選びます。画面が変わったら、行内容コードに先程メモしたコードを始めに入力(終りは空白)し、他はエンターキーで最後までとばします。カーソルが左上の選択に戻ったら印刷指示をかけます。

これ以降は、2)④以降と同じ作業となります。但し、英語版の場合、行内容コード(Line Content Code)は、Row Content Code、行番号(Statement Line No.)は、Row Line Number となり、勘定科目コード 始め、終り(Account Code From To)は、基本行分類 始め、終り(Row Basis From To)となります。

##### ★列の設定に勘定科目コードが設定されている場合

- ④ TF=テーブル書式设计(Table Formats)を開け、選択(Action)で、E=調査(Examine)を選択し、科目が反映されなかった帳票のテーブルコード(Table Code)を指定します。(テーブルコード(Table Code)は、FTで印刷するときのコードです)
- ⑤ 表示されている「コラム内容コード(Column Content Code)」をメモします。(これが列を設定しているグループのコードです)
- ⑥ TC=テーブル列設計(Table Columns)を開け、選択より帳票出力(R)を選びます。画面が変わったら、行内容コードに先程メモしたコードを始めに入力(終りは空白)し、他はエンターキーで最後までとばします。カーソルが左上の選択に戻ったら印刷指示をかけます。

これ以降は、2)④以降と同じ作業となります。但し、行内容コード(Line Content Code)は、コラム内容コード(Column Content Code)、行番号(Statement Line No.)は、コラム番号(Column Number)となり、勘定科目コード 始め 終り(Account Code From To)は、コラム基準 始め 終り(Column Basis From To)となります。

※この修正を実行しても印刷されない場合には、印刷時の会計期(Period)の設定や各コードの範囲指定、仮帳簿を含めているか等をご確認ください。

以上